

林業技術センター情報

2026. 3 No.50



左：みやざき林業大学校（御田祭）、右上：オープンキャンパス、右下：小学生の体験学習（樹木ツアー）

目次

○研究情報

スギの品種で花粉症のない未来へ・・・・・・・・・・ 1

稀菌ブンゴツボマツタケの発見と宮崎県の希少菌類・・・・・・・・・・ 3

○林業技術センターの主な出来事2025・・・・・・・・・・ 5

○林業技術センターのサクラ情報です・・・・・・・・・・ 7

○「森の科学館」では森林・林業について楽しく学べます・・・・・・・・・・ 8

○お知らせ

令和8年度森を学ぶ体験教室（森とのふれあい教室）のご案内・・・・ 9

スギの品種で花粉症のない未来へ

新緑の芽吹き、桜、新生活への期待…。春は輝かしい季節です。しかし、花粉症の人々にとっては、その輝きが霞んでしまうつらい季節でもあります。

当センターでは、つらい花粉症の原因となるスギ花粉の飛散量を減らすため、花粉の少ないスギ苗木の研究を行っているので、その取り組みを紹介します。

【宮崎県は花粉飛散量が多いのか？】

県土の76%が森林で、人工林の約7割がスギという宮崎県。花粉の飛散量も当然多いのでしょうか。

実際の花粉の飛散量について、環境省が毎年行っている調査結果と各県のスギ人工林面積のデータから、1haあたりの花粉量をグラフにしたのが図1です。これを見ると、宮崎県の花粉量（折れ線グラフ）は東京よりも多いですが、スギ人工林面積あたりの花粉量（棒グラフ）は、東京よりもずっと少ないことが分かります。これには、宮崎県ならではの“ある特徴”が関係しています。

【花粉の少ないスギ品種】

宮崎県がスギ林の面積の割に花粉の飛散量が少ない原因の一つに、スギの品種の違いがあります。スギは、品種によって、1本のスギが作る花粉の量に大きな差があります。驚くべきことに、宮崎県で伝統的に植栽されてきた「オビスギ」と呼ばれるスギの品種群の中には、平均的なスギの1%以下しか花粉を出さないものが複数確認されているのです。

こうした花粉の少ない品種が植栽されてき

たことで、宮崎県はスギの本数の割に花粉の飛散量が抑えられているというわけです。

現在、宮崎県で多く苗木が作られている「高岡署1号」という品種は、オビスギ群から成長の良さで選抜された精英樹ですが、花粉の量も非常に少なく、「少花粉スギ」に認定されています。

【花粉の少ない品種への植え替え】

スギは、植え付けてから収穫までに最低でも35年かかります。一度花粉の多い苗を植えてしまうと、そのスギから長期にわたり花粉が発生し続けるため、山に植栽する苗木が本当に花粉の少ない品種なのかを明確にすることが不可欠です。

山に植える苗木すべてを検査することは困難なので、当センターでは苗木を増やすための母樹について、年間900件程度、DNA解析技術を用いてスギの品種判別を行っています（写真1）。現在、宮崎県で出荷されている苗木の多くは、すでに花粉の少ない品種となっており、将来的には、花粉発生量は減少していくことが見込まれます。

【宮崎県由来の無花粉スギを作る】

スギの中には、遺伝子の突然変異により花粉を全く作らない「無花粉スギ」が存在します。これは、花粉症に悩む人々にとってまさに悲願であり、関東や北陸地域では既に品種登録され、植栽が進められています。

一方、九州ではまだ「無花粉スギ」自体は見つかっていませんが、大分県と佐賀県のスギ品種の中から、将来的に花粉を作らない性

質を受け継ぐことができる「無花粉遺伝子」を潜在的に持つスギが発見されています。

この潜在的な「無花粉遺伝子」を持つスギは、それ自体は花粉を作りますが、適切な交配を行うことで、その子孫には「無花粉」の性質を持たせることができます。

そこで現在、当センターでは、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター九州育種場と共同で、宮崎県のスギと「無花粉遺伝子」を持つスギの交配を進め、無花粉遺伝子をもつスギを育苗中です（写真2）。現在育苗中のスギの中から、遺伝の法則に基づき無花粉遺伝子をもつスギ同士を交配すると、その次の世代では「無花

粉スギ」を確実に作ることができます。しかし、その無花粉スギについては、性能（成長、病虫害耐性、材質等）に問題がないか慎重に見極める必要があります。そのため、実際に苗を育て、こうした性能を長期間にわたって評価する期間が必要となります。

このように、実際に宮崎の山に「無花粉スギ」が広く植えられるまでには、まだ時間を要します。しかし、花粉症で苦しむ方が増え続ける中、当センターではこの研究の重要性を強く認識し、皆さまに希望をお届けできるよう、今後も研究を加速していきます。

（育林環境部）



図1 スギ花粉飛散量をスギ人工林面積で割った値



写真1 DNA解析の様子



写真2 育苗中のスギ苗木

稀菌ブンゴツボマツタケの発見と宮崎県の希少菌類

【稀菌ブンゴツボマツタケ】

2025年7月、当センターの敷地内で珍しいきのこが見つかりました（写真1）。国内4例目の発見となる希少種ブンゴツボマツタケについて紹介させていただきます。

発見場所はシラカシの樹下でした。周辺にはテングタケ属のきのこが群生しており、その中に1株だけ別のきのこが生えていました。持ち帰って調べてみると、調べれば調べるほど首をひねってしまうような、不思議な特徴を備えていました。



写真1 ブンゴツボマツタケの発生状況

マツタケのような姿で匂いもマツタケ、当初はマツタケの仲間ではないかと予想しました。周辺にマツはありませんでしたが、マツタケの近縁種には広葉樹林に生えるニセマツタケ、バカマツタケという種もあり、その可能性をまず考えたのです。しかし、どうしても形態的におかしい部分がありました。マツタケの仲間にはないはずの“つぼ”があったのです。つぼはきのこの根元付近にあるつぼ状の構造物で、テングタケの仲間などによく見られるものです。つまりこのきのこはマツタケとテングタケを合体させたような摩訶不思議な構造をしていたのです（写真2）。

このように、かなり特徴的なきのこであったにもかかわらず、それらしい種が見つからず、私は菌寄生性の種について考えました。テングタケの

仲間のきのこに何か別のきのこが寄生しているのではないかと発想です。再度調べてみると、カブラマツタケというマツタケの様な形をした寄生性の種が見つかりました。しかし、カブラマツタケにつぼはなく、寄主もワカフサタケ属やコガネタケ属の菌類とされていました。マツタケの匂いがするという情報もありません。

最終的に私は宮崎県総合博物館と大分きのこ会に、この訳のわからないきのこについて尋ねてみることにしました。

そして判明したのが、“仮称ブンゴツボマツタケ”という未記載種（名前が付いていない種）でした。ブンゴツボマツタケはカブラマツタケ属の菌類で、テングタケ属のきのこに寄生する菌寄生性の菌類と考えられています。現在までに大分、京都、奈良の3箇所でしか確認されておらず、今回が国内4例目の発見であるとのことでした。

最初に発見されたのが大分県であったことから“ブンゴ”、つぼのあるマツタケ様のきのこであったことから“ツボマツタケ”というのが仮称の由来だそうです。



写真2 ブンゴツボマツタケの解剖図

【宮崎県の希少菌類】

この他、宮崎県の希少菌類として宮崎県版レッドデータブックに記載されている 50 種の菌類から、3 種を紹介します。

【キリノミタケ】

県：絶滅危惧ⅠB類（EN-g） 国：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

宮崎県を代表する珍しいきのこ。桐の実が裂開したような独特な形をしています。以前は宮崎県とテキサス州にしかないきのこと言われていました（現在では他の地域でも発見されています）。キリノミタケの発生木は真っ黒でとても堅く、腐朽速度が大変遅いです。



【トライグチ】

県：絶滅危惧ⅠA類（CR-r） 国：情報不足（DD）

国内では宮崎県でしか見つかっていない、産地が極めて限られるきのこ。虎のような模様が美しい。台湾とマレーシアでも発見されており、宮崎県が分布の北限と考えられています。



【コウボウフデ】

県：準絶滅危惧（NT-g） 国：情報不足（DD）

青磁色の異様な形をしたきのこで、全国的に知られた珍菌です。名前のおり筆のような形をしており、胞子で字を書くと墨で書いたように見えます。野外で観察してみると、1ヶ月以上かけて細く長く成長し、成熟すると 10 cm 以上になります。日本固有種で宮崎県が分布の南限とされています。



【参考文献】

- ・今関六也ほか（2011），日本のきのこ，山と溪谷社
- ・大分きのこ会（2010），大分と九州のきのこ，佐伯印刷
- ・黒木秀一（2015），宮崎のきのこ，鉾脈社
- ・宮崎県レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会（2022），三訂・宮崎県版レッドデータブック宮崎県の保護上重要な野生生物，新生社

【おわりに】

宮崎県の希少菌類については、まだまだ調べられていないことが多く、今後も新しい発見が期待されています。

菌類の研究というと難しい感じがしますが、全国各地に野生きのこの会があり、アマチュアに支えられている分野でもあります。

皆さんも、身近であって身近でない、深遠な菌類の世界にふれてみませんか。

（森林資源開発部 三田岳）

林業技術センターの主な出来事2025

【みやざき林業大学校（長期課程）】

宮崎県林業技術センターでは、本県の林業の将来を担う人材を育成するため、「みやざき林業大学校」において、実践的な人材育成を総合的に実施しています。

このうち、「長期課程（1年間）」では、第7期生15名が4月に入講し、18歳から48歳までの幅広いメンバーで研修に取り組んでいます。

入講後、チェーンソー作業や高性能林業機械操作に必要な特別教育等の資格取得に加え、測量、下刈り、伐採などの実習で技術の習得にも励んでいます。



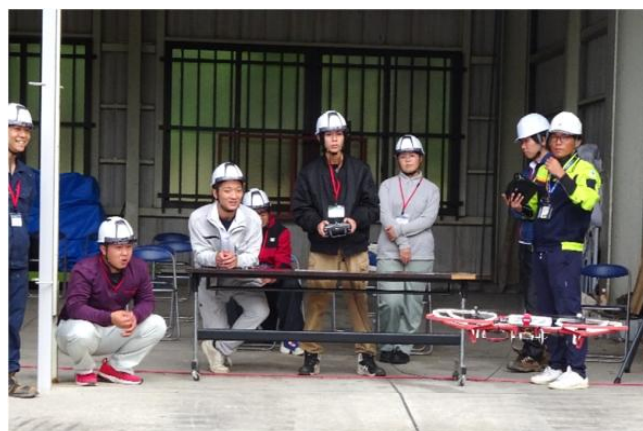
チェーンソー資格取得



下刈り実習

カリキュラムについて、近年ICTに関する研修の充実を図っていますが、今年度はさらに時間を拡大し、ドローンに関する民間資格（ドローン検定3級）の取得にも

チャレンジし、全員が合格することができました。



ドローン操作実習

また、研修生が今後のキャリアを考えるきっかけとして、本県の林業を担う経営者や林業大学校の修了生から、経験談や今後の展望について話を聞く研修も実施しました。



課題解決研修（宮崎の林業を担う先輩から学ぶ）

1年間にわたり、森林・林業の基礎知識から、下刈りや伐採、高性能林業機械の操作といった現場での技術や技能を学んだ研修生は、令和8年3月に研修を修了し、それぞれ県内の林業事業体等へ就業する予定です。今後、研修生の皆さんが、林業県みやざきを盛り上げる人材となることを期待しています。

【林業作業士養成研修が修了】

5月26日から17週、44日間にわたり「林業作業士養成研修（みやざき林業大学校「短期課程」）」を実施しました。

この研修は、高度な技術・技能を持った林業技術者を育成・確保するため、宮崎県林業労働機械化センターと連携して行っています。

今年度は、受講できる全ての研修科目を無事修了された8名の方に、修了証書が授与されました。研修生は会社や経験、年齢も様々なメンバーでしたが、情報交換を積極的に行い、親睦を深めながら研修に取り組みました。



みやざき林業大学校（短期課程）
（林業架線作業主任者免許講習）

【育林環境部の三樹専門技師が森林遺伝育種学会賞を受賞しました】

育林環境部の三樹専門技師が取り組んできた「Mスターコンテナによる優良種苗普及技術の開発研究」が、第13回森林遺伝育種学会賞を受賞しました。

表彰式は、11月7日（金）に東京大学弥生講堂一条ホールで開催された「森林遺伝育種学会第14回大会」において行われました。

この学会は、森林に係わる遺伝と育種の研究発表及び情報交換の場を提供すること、また森林・林業分野における森林遺伝育種に関する情報を広く社会に広報して、日

本の森林の持続的発展をはかることを目的として運営されております。

今回の受賞は森林遺伝育種学の分野ですぐれた業績をあげた者に授与されたものです。



表彰式の様子（本人は右から二番目）

【高鍋東・西小学校の体験学習を行いました】

7月24日に宮崎県森林・林業協会が実施する「森林のいいところ森発見ツアー」が開催され、高鍋東・西小学校3、4、5年生39名が当センターで体験学習を行いました。

今回は、木の大きさを調べるとして、紙とおもりを使用し、簡易的な測高器を作成しました。

その後、施設内の樹木の高さを計測しました。



体験学習中の生徒たち
（管理・林業大学校研修課）

林業技術センターのサクラ情報です

林業技術センターの敷地内には、約80種類、約400本のサクラが植栽されており、早春から晩春にいたる長い期間、いろいろなサクラを楽しむことができます。

特に3月下旬から4月中旬が見頃です。サクラの開花時期には是非お越し下さい。

(屋外トイレの斜め向かいに「さくら見本園」の看板がありますのでご利用ください。)



いろんな色や形のサクラを楽しむことができます。



①



②

①タイリョウザクラ
(大漁桜)
開花期:3月上旬

②カンザン
(関山)
開花期:4月中旬



③



④

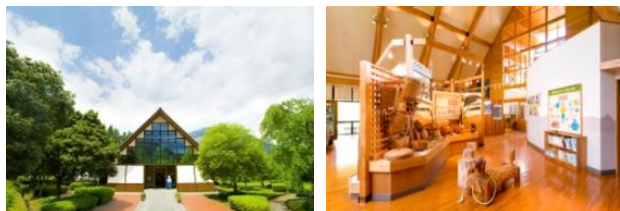
③ギョイコウ
(御衣黄)
開花期:4月中旬

④ジューガツザクラ
(十月桜)
開花期:10月上旬

※ 写真は過去に撮影されたものです。
※ 年によって開花の時期が異なります。

「森の科学館」では森林・林業について楽しく学べます

林業技術センター内の「森の科学館」では、年間を通じて、木工体験やしいたけ栽培体験教室等の講座を開催しており、森林・林業の役割についても自由に学ぶことができます。



裏面に、令和8年度の「森を学ぶ体験教室」の予定を掲載しておりますので、皆様の幅広いご利用をお待ちしています。

主催事業

年間 20 種類 26 回の講座を実施しています。



＜薬草教室＞



＜親子昆虫教室＞



＜竹灯籠づくり教室＞

自主研修

自主研修として、家族やグループ、幼稚園児や小学生等による木工体験のほか、森林に関する環境教育等の講話・講義を実施しています。



＜森林の環境教育講義・小学生の木工体験＞

森とのふれあい祭り

「森とのふれあい祭り」は、県民の皆様や子供たちに、森や木とのふれあいを通して森林・林業への知識や理解を深めてもらう催しです。令和7年度は、11月3日(月)文化の日に開催しました。



＜森とのふれあい祭り＞

主催事業や自主研修、ふれあい祭りに参加された皆様が、「よかった」「楽しかった」と笑顔で帰って行かれるのが、私たちスタッフの一番の喜びとなっています。

【お問い合わせ先】

森の科学館 TEL・FAX：0982-66-2004

令和8年度森を学ぶ体験教室(森とのふれあい教室)のご案内

森の科学館では「森とのふれあい教室」として各種催し物を計画しています。是非ご参加ください！

実施時期	講座名	内 容	募集対象者 及び人数
令和8年 4/12	山野草教室	身近な山野草について学び、山菜等を使った料理を試食する	一般 50人
5/2～5/5	春の木工教室週間	県産スギやヒノキを使って、恐竜や動くおもちゃ、便利グッズ等を作る	小学生～ 40人
5/24	薬草教室	身近に自生する薬草についてその生態や取扱い方を学ぶ	一般 50人
6/7	竹灯籠づくり教室	身近な竹材を利用した「灯籠づくり」を体験する	小学生～ 30人
7/12	しいたけ料理教室	乾しいたけの栄養価や調理方法について学び、自ら調理して試食する	一般 30人
7/18～7/19 (1泊2日)	親子植物・昆虫教室	身近な植物や昆虫について学び、周辺の野山で採集、標本の作り方を体験する	小中学生親子 50人
7/26, 8/2 8/11, 8/16	夏休み親子木工教室(4回)	スギやヒノキ材を使って実用的なグッズやおもちゃ等を作る	小中学生親子 各回 20～40人
9/20	草木染め教室	身近な草木を利用した「草木染め」を体験する	一般 40人
11/3 森との ふれあい祭り	木工教室(キット、自由)	木工で使った残りの板や端材等で、自由に作品を作成する	小学生～ 100人
	木の実クラフト教室	どんぐりや松ぼっくりなどを使ってアクセサリーや人形・置物等を自由に工作する	幼児～ 100人
	森の恵みコーナー	毎日の生活に役に立っている森林や林業のすばらしさや良さにふれる	小学生～ 50人
	林業機械乗車体験コーナー	林業機械について学び乗車体験をする	小学生～ 50人
	森の木の公園	木で作った遊具で自由に楽しむ	幼児～ 50人
	トールペイント教室	トールペイントで木製の飾りを作る	小学生～ 30人
11/29	木製カレンダーづくり教室	自然素材(桜の枝、杉板)を使ったオリジナルのカレンダーづくりに挑戦する	小学生～ 30人
12/25	門松づくり教室	新年を迎えるための門松を自ら手作りする	小学生～ 40家族
令和9年 1/24	そば打ち体験教室	県産そば粉を使いそば打ち体験をし、自ら打ったそばを乾しいたけや山菜の豊かな出汁で味わう	一般 30人
2/21	しいたけ栽培体験教室	しいたけの栽培法について学び、実際にしいたけの駒打ちを体験する	一般 50家族
3/28	桜の観賞会	桜についての知識を深めながら、場内に植栽されている様々な桜を観賞する	小学生～ 50人

※行事内容及び開催日については予定であり、変更が生じる場合がありますのでご注意ください。(令和7年12月現在)

※申込みは電話またはファックスで、受付期間は各教室等によって異なりますので事前にお問い合わせください。

※行事によっては、参加費が必要となりますのでご注意ください。

※詳しくは、森の科学館まで(電話、ファックス:0982-66-2004)。

林技センター情報 (No.50)

発行 宮崎県林業技術センター

〒883-1101 宮崎県東臼杵郡美郷町西郷田代 1561-1

TEL 0982-66-2888 FAX 0982-66-2200

E-mail ringyogijutsu-c@pref.miyazaki.lg.jp